

根上総合文化会館芝管理業務委託 仕様書

1. 一般事項

- 1) 発生材の処理は、受注者が処理し現場に存置することなく作業の都度搬出し、適正に処分するものとする。ただし、あらかじめ監督員の確認を得たものについてはこの限りではない。
- 2) 本仕様書に記載なき事項、また業務実施中に疑義が生じた場合は、その都度発注者と協議し指示に従うこと。
- 3) 現地確認の立会いは、双方協議して定めるものとする。
- 4) 契約期間中に受注者から管理内容の変更について申し出があった場合は、双方協議して定めるものとする。
- 5) 作業に当たっては、芝等の特性及び環境条件を勘案し、細心の注意をもって作業を行うこと。
- 6) 作業時間は、原則として午前8時30分から午後5時までとする。
- 7) 作業の実施に当たっては、第三者に危険のないように十分配慮して行うとともに、来客車両、施設及び芝等に損傷を与えないように行うこと。
- 8) 作業に使用する薬剤、肥料等は、季節・環境に適正なものを使用すること。
- 9) 本仕様書は業務の概要を示すものであって、本書に記載のない事項であっても発注者が管理上必要と認めた軽微な業務については、業務委託料の範囲に含むものとする。
- 10) 電気または水道の使用にあたっては、極力節電、節水に努めること。
- 11) やむを得ず業務の一部を第三者に委託又は請け負わせる場合は、あらかじめ書面により監督員の承諾を得なければならない。
- 12) 業務の全部又は部分払に係る業務の一部分が完了したときは、業務結果報告書(※1)を発注者に提出し、発注者が出来形を確認した後、業務委託料の支払いを請求することができる。発注者は、請求を受けてから30日以内に支払わなければならない。
- 13) この仕様書、特記事項にないものについては、協議の上定めるものとする。

※1 業務結果報告書とは、下記の書類をとりまとめたものをいう。

- ①作業前・作業後の写真
- ②作業中の写真
- ③業務履行報告書・作業月報等、履行状況・数量等がわかるもの
- ④その他、監督員が必要と認めたもの

2. 作業面積、作業回数及び作業実施月

1) 人力除草	3, 6 6 0 m ²	年	1 回	(7～9月)
2) 芝刈り	1 8, 3 0 0 m ²	年	4 回	(6～10月)
3) 施肥	7, 3 2 0 m ²	年	2 回	(7月、9～10月)
4) 目土掛け	3, 6 6 0 m ²	年	1 回	(8～10月)
5) 薬剤除草	7, 0 4 2 m ²	年	2 回	(7月、9～10月)
6) 殺虫剤散布	7, 3 2 0 m ²	年	2 回	(7～8月、9月)
7) 殺菌剤散布	3, 6 6 0 m ²	年	1 回	(11月)

※実施日・日程については、芝の成長を勘案し、発注者と細心の調整をはかること。

3. 作業内容

ア 芝生管理

1) 目的

- 芝生面を平滑にし、美観を高める。
- 芝生の分けつを促進し、ターフを密生させる。
- 利用、修景目的に応じた芝生の刈込み高を維持する。
- 通風、日射を確保し、健全な育成を促す。
- 雑草を消滅させたり、雑草の進入を防いだりするなど、除草効果を高める。

2) 芝刈りの時期、回数等

芝刈りの時期、回数等は芝の育成状態、気象状況等の場所などにより異なるが、現場の状況により、適正な作業管理を行い、常に良好な芝生状態を保つこと。

3) 芝刈りの方法

- 通常、芝刈りは原則機械刈り（面積に応じてロータリーモア、ハンドガイド式、フライモア、トラクターモア）とするが、極小面積あるいは機械使用が不可能な場合は補助的に手刈りで行うこと。
- 芝生内にある石、空缶等障害物はあらかじめ取り除くこと。
- 芝生内にある樹木、草花、施設等を損傷しないよう注意し、刈りむら、刈り残しのないよう均一に刈込むこと。
- 樹木の根際、柵類のまわりなど、機械刈りの不適當または不能の場所は手刈りとする。
- 刈り取った芝は、速やかに処理するとともに、刈り跡はきれいに清掃すること。

4) 除草

- 除草は人力除草を基本とするが、状況により除草剤を使用する場合は、周辺環境に配慮し、安全性の高い薬剤を使用すること。人力除草は、特に地被植物や樹木周りを重点的に行い、雑草の結実前に効果的に行うこと。
- 雑草拔、除草フォークなどを用いて根より抜き取る。
- 芝生を傷めないように、丁寧に抜き取る。

5) 目土

- 芝生面の凸凹を平坦にし、土壌の硬化を防ぎ、新芽の出やすい環境をつくるため、適期に目土を行うこと。
- 目土は雑草の種子や石等の混入していない水はけの良い土とし、肥料を混ぜて使用し、一度に施工する厚さは、5 mm程度とすること。
- 目土掛けの作業は、必ず芝生を刈り込んだ後に行うこと。

6) 施肥

- 施肥の目的は、芝生の生育の促進、病害虫に対する抵抗力、土壌の改良及び地力の維持などであり、芝生を美しく維持するため、適期に行うこと。
- むらのないように均一に散布する。
- 固形肥料を施す場合は、降雨直後などで葉面のぬれている時は行わない。
- 肥料の標準使用量は、1 m²当たり50～60グラムとする。
- せせらぎ水路へ肥料が入らないように十分注意すること。

7) 薬剤散布

- 動噴機の使用は雨天、強風等天候不順の日や日中高温時を避けて行う。
- 散布作業車が車道上に出て作業する場合は、警察の許可を得て作業に入ること。
- 薬剤散布は通行人等に支障のない時間を選び作業すること。
- 作業中は安全標識、安全ロープ等によって通行人等の安全対策を講ずること。
- 薬剤散布の作業中はマスク、手袋等を着用し、安全に対して十分に気をつけること。
- 薬剤は、指示定量を芝生全体に万遍なく散布すること。
- 殺虫後、地上に落ちた幼成虫は除去すること。
- 田畑及びせせらぎ水路へ薬剤が入らないように十分注意すること。